

# 新幹線プレス

2014年5月16日 No.166

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

## 経営協議会シリーズ4

新幹線地本は、4月11日に開催された「平成26年度新幹線鉄道事業本部実行計画」についての経営協議会のなかで、労働条件についての協議も行いました。主に『休日出勤について』『年休問題について』のそれぞれの問題点について議論しました。

## 一方的な休日出勤は増加の見込み!!

### 組合側主張

◆休日出勤について、2004年から10年になる。依然として解消していない。会社は、毎年早期解消に向けてとっている。昨年、乗客のニーズに応えなければとっているが、休日出勤に依存してのダイヤになっている。休日出勤解消に向けての計画を明らかにすること。

### 会社回答

◆休日出勤について、総じて列車の輸送状況が好調なご利用状況で、臨時列車の本数とか乗務員の養成計画とか、不安定要素が大きい中で、詳細に現時点申し上げづらいところですが、今年度休日出勤は増加する見込みです。

## 年休は適正に対応、運用上問題はない!!

### 組合側主張

◆年休問題について、要員に関わる問題であり毎年議論しているが、20日間年休が消化できない事態が発生している。保存休暇も上限一杯に達している組合員も多にいる。そうなると年休2年間の有効期間を過ぎて時効・消滅する年休が発生してくる。時効になった年休及び年休消化率の会社の認識を明らかにすること。

### 会社回答

◆年休・保存休暇について法令並びに労働協約、就業規則に則り適正に対応している。まあ運用上問題だという認識にはございません。

JR東海労は、今後も3泊程度の一方的な休日出勤反対、東一・二運の基準人員すら下回る要員配置で年休を抑制せざるを得ない現状を打破すべく問題解決に向けて闘います。